

がん医療フォーラム2014 「がん患者さんを地域で支える仕組みづくり」

来場者 アンケート結果

共催 独立行政法人国立がん研究センター
公益財団法人がん研究会
東京大学死生学・応用倫理センター
帝京大学

後援 厚生労働省、正力厚生会、読売新聞社

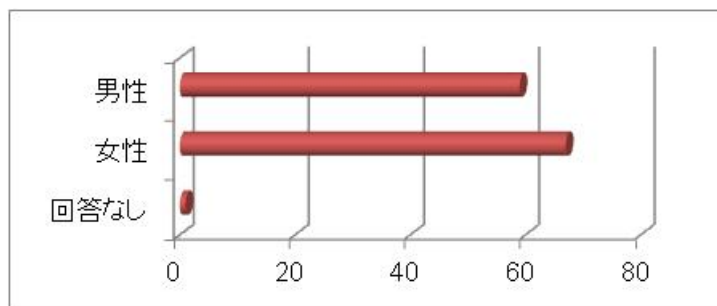
日時 2014年12月13日(日) 13時00分～16時00分

会場 東京工科大学 蒲田キャンパス (東京都大田区)

アンケート回答者数 127名

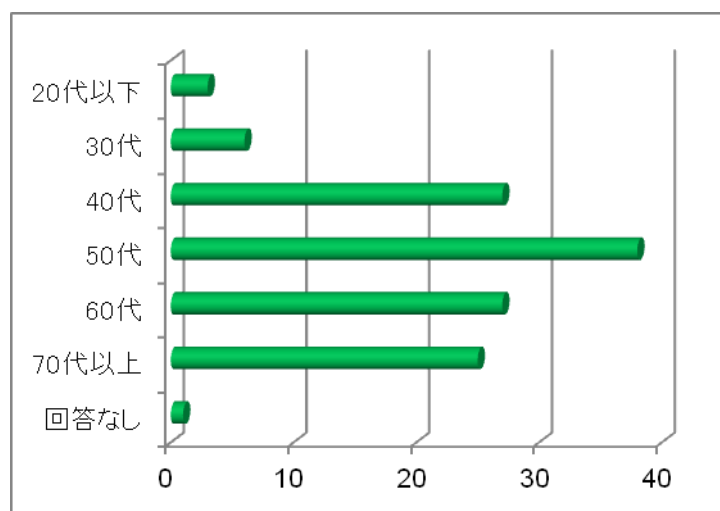
■ 性別を教えてください。

	回答数	比率
男性	59	46.5%
女性	67	52.8%
回答なし	1	0.8%
合計	127	100.0%



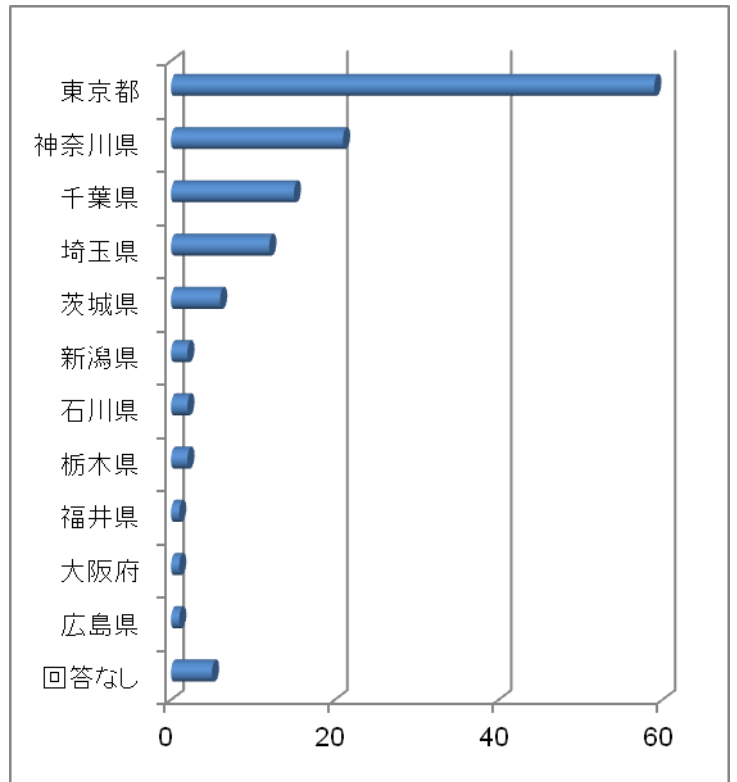
■ 年代をお選びください。

	回答数	比率
20代以下	3	2.4%
30代	6	4.7%
40代	27	21.3%
50代	38	29.9%
60代	27	21.3%
70代以上	25	19.7%
回答なし	1	0.8%
合計	127	100.0%



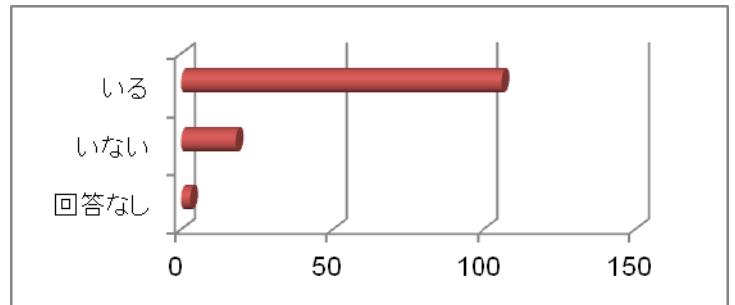
■お住まいの都道府県を教えてください。

	回答数	比率
東京都	59	46.5%
神奈川県	21	16.5%
千葉県	15	11.8%
埼玉県	12	9.4%
茨城県	6	4.7%
新潟県	2	1.6%
石川県	2	1.6%
栃木県	2	1.6%
福井県	1	0.8%
大阪府	1	0.8%
広島県	1	0.8%
回答なし	5	3.9%
合計	127	100.0%



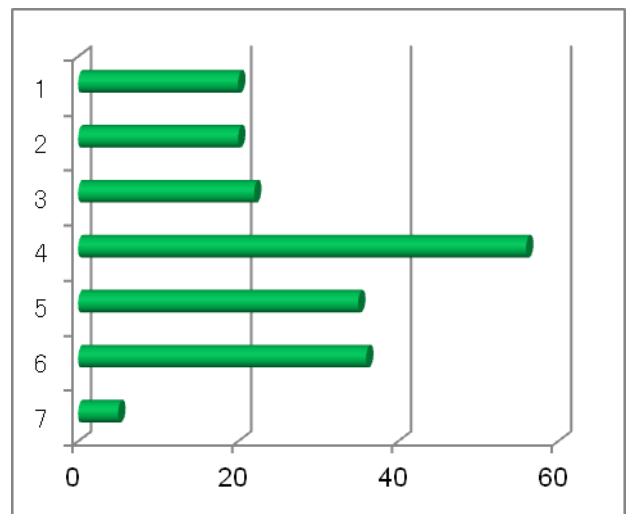
■現在または過去に、ご自身、ご家族や周囲にがんにかかっている方はいらっしゃいますか。

	回答数	比率
いる	106	83.5%
いない	18	14.2%
回答なし	3	2.4%
合計	127	100.0%



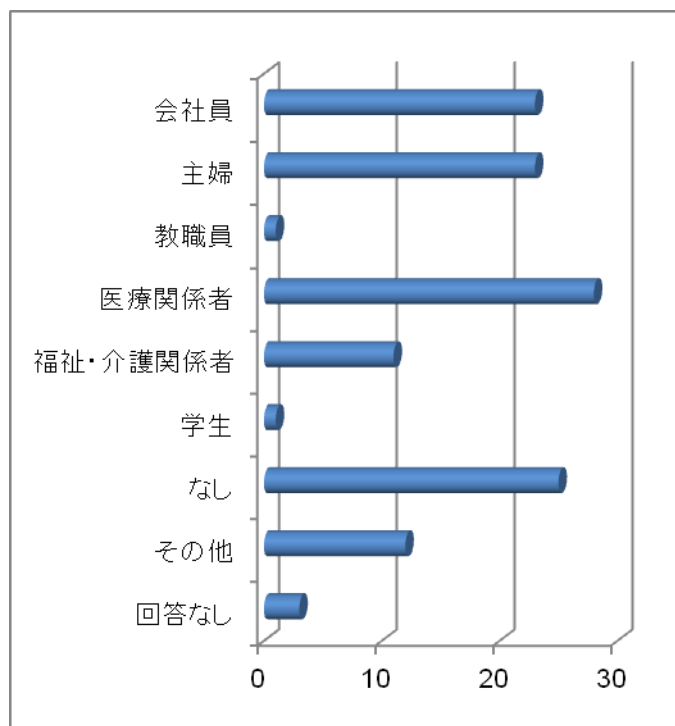
■「いる」とご回答の方の記入内容

	回答数	比率
1.現在、自分ががんにかかっている	20	18.9%
2.過去に、自分ががんにかかっていた	20	18.9%
3.現在、家族ががんにかかっている	22	20.8%
4.過去に、家族ががんにかかっていた	56	52.8%
5.家族ではないが、現在、周囲にがんにかかっている人がいる	35	33.0%
6.家族ではないが、過去に、周囲にがんにかかっている人がいた	36	34.0%
7.自分や家族などが、がんではないかと疑っている	5	4.7%
回答者数	106	
回答数	194	



■ご職業をお聞かせください。

	回答数	比率
会社員	23	18.1%
主婦	23	18.1%
教職員	1	0.8%
医療関係者	28	22.0%
福祉・介護関係者	11	8.7%
学生	1	0.8%
なし	25	19.7%
その他	12	9.4%
回答なし	3	2.4%
合計	127	100.0%



■上記で医療関係者および福祉・介護関係者に
チェックされた方にお尋ねします。

職種・専門分野をお聞かせください。

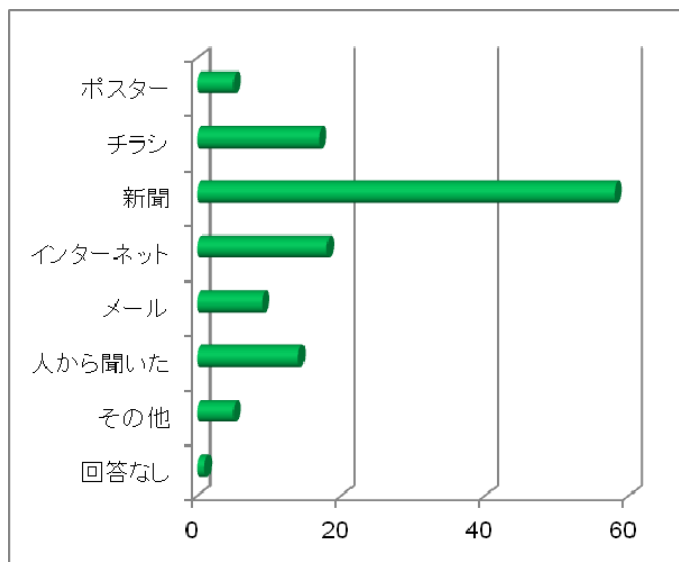
	回答数	比率
看護師/保健師	16	41.0%
ソーシャルワーカー	10	25.6%
医師	5	12.8%
事務	3	7.7%
薬剤師	1	2.6%
その他	7	17.9%
回答なし	1	2.6%
回答者数	39	
回答数	82	

※上記の比率は回答者数に対する比率です。

■本日のフォーラムをどこで知りましたか。

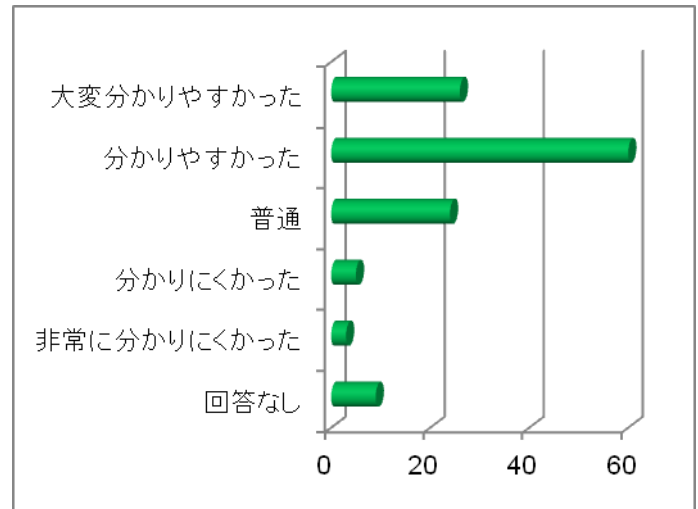
	回答数	比率
ポスター	5	3.9%
チラシ	17	13.4%
新聞	58	45.7%
インターネット	18	14.2%
メール	9	7.1%
人から聞いた	14	11.0%
その他	5	3.9%
回答なし	1	0.8%
合計	127	100.0%

※「その他」とご回答の方の記入内容はありません。



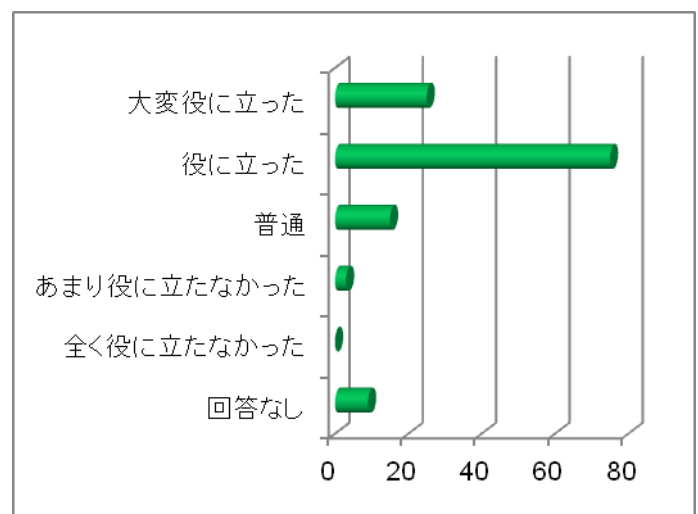
フォーラムの「内容」は分かりやすかったですか。

	回答数	比率
大変分かりやすかった	26	20.5%
分かりやすかった	60	47.2%
普通	24	18.9%
分かりにくかった	5	3.9%
非常に分かりにくかった	3	2.4%
回答なし	9	7.1%
合計	127	100.0%



フォーラムの「内容」は役に立ちましたか。

	回答数	比率
大変役に立った	25	19.7%
役に立った	75	59.1%
普通	15	11.8%
あまり役に立たなかった	3	2.4%
全く役に立たなかった	0	0.0%
回答なし	9	7.1%
合計	127	100.0%



【フォーラムの感想:寄せられた自由記述から】

- ・具体的な事例の説明や、「ひと月にかかるお金」についての説明が参考になった。
- ・在宅を社会で支える仕組みについて考える機会になった。高齢化社会の優先課題と思う。
- ・在宅・病院双方の方が参加しているのは頼もしい。
- ・この講演を自分の県(地域)の方に聞いて欲しいと強く感じる。
- ・「家で看取る」「ホームホスピスで看取る」、その環境が増えていることにホッとした。教育やシステム作りが重要。
- ・それぞれが皆で考えていかなければならない問題。現状の危機感を感じて何かやれることは自分でやらなければならない、受身だけではダメなんだと思いました。
- ・全てに共通している内容として「つながり」や「共有」というワードがあり勉強になった。

Q あなたの考える「がん患者さんとご家族を地域で支える社会」とは、どのような社会ですか

・医療やケアマネジャーの枠を飛び越えて、やはり人とのつながりで支え合える社会。

・お互い、地域の中で軽いつながりを持ち、お互いに支え合える社会だと思います。がんであってもなくても、もう少し他の人に関心を持つ社会だと思います。死を悪と捉えると精神的にきついで、死をもっと話せる社会だと思います。

・必要な時に必要なサービス(医療含む)について相談できる窓口が身近にある社会。

・家族が負担にならず、急性期にはすぐに病院に入院できるバックボーンがあり、自ら考えて治療を選択して自宅で暮らせる社会制度。

・がん患者を特別視しない、差別しない社会だと思います。

・最初の窓口が大事。患者・家族の為にじっくり時間をかけてヒアリング・アドバイスが必要。支える仕組みを動かす人、コーディネーターが必要。

・充実した在宅医療と介護サービス、気兼ねなく相談できる場とコミュニティの支えすべてが絶え間なく連動することで安心できる社会となるのではないのでしょうか。

・ホームホスピスが全国にたくさんあると大変安心でき、助かる。こういう所が近くにあれば自分や家族も利用したい。

・地域の病院、診療所、訪看、訪介など医療介護分野と行政、市民団体、社協など各界がともにがんの在宅療養サポート体制を作る事が大切。

・情報の共有、地域社会での見守りが大切。

Q もっと詳しく知りたかった点や議論したかった点、お感じになったことをお書きください。

- ・本人が何を希望するのか、どう暮らしていきたいのかと思うことが知りたかったです。仕事を続けながらがんと共に生きていくのに必要な制度や支えについても知りたい。
- ・緩和ケアの実態やがんセンターと地域とのつながりを詳しく知りたかったです。
- ・本人に加えて、ご家族を支える仕組みがあれば精神的にも楽になるのと思いました。
- ・地域包括ケア体制におけるがん終末期在宅緩和ケアの位置づけで後方支援病院のあり方について詳しく知りたい。

Q 「地域における緩和ケアと療養支援情報プロジェクト」について、療養支援に必要な情報、役に立つ情報について、ご意見やご提案をお寄せください。

- ・手引きがあれば大変役に立つと思う。完成を楽しみにしています。
- ・何かあればすぐに相談できる窓口が欲しいです。
- ・がん診療連携拠点病院から支援診療所、看取り看護可能な訪問看護・訪問介護ステーションを地図に落とし込んで「地域がんマップ」を配布している。ホームページに公開する資料の増加も望む。
- ・終末期に限らず緩和ケアを利用できると書かれていてもまだ、多くの方には終末期でないと門をくぐってはいけないと思っているようです。もっと患者・家族が認識できるアプローチが必要。
- ・患者、家族が自分達の今と重ね合わせられると良い。体験談とその支援体制が分かると良い。
- ・介護士やヘルパーなどの方々に広く集まってもらって、意見を出してもらおう場所が必要。ケアマネ、介護士、看護師などフォロー側からのアドバイスが欲しい。
- ・子供達や若い人達に「自分や家族ががんになった時にどうするか」を考える機会や情報が提供できたら良いと思う。子供でも読みやすい形式で情報が発信されたら家族で話し合える機会になる。